

音楽の読解力を育てる言語活動の授業

聴いて 考え 表現しよう

内田有一 著

前書き

音楽科は何を教える教科なのか。

この問いに、「感性である。」「感動である。」「創造性である。」「上手な演奏である。」等、様々な答えが存在する。音楽科で教え、身につけさせる学力の共通理解はないのである。

筆者は7年前、共著「危機に立つ音楽科教育」において、旋律、リズム、和声、強弱、速度、音色という音楽の諸要素を感受し、それを記号化した楽譜を読み、表現できる力を音楽科の基礎基本にすることを主張した。これを音楽の読解力（リテラシー）と呼ぶことにする。

平成20年3月に告示された新しい学習指導要領では、この音楽の読解力が音楽科の基礎基本であるとされ、共通事項の形で明確に示された。

音楽の読解力とは、演奏における楽曲分析と解釈と同様の概念である。鳴り響く楽曲や楽譜から音楽の諸要素をデータとして読み取るのは、楽曲分析である。データを解釈し、どう表現するか考えたものは、インテリジェンスである。

音楽科の学習において、データをインテリジェンスにするのが音楽の読解力といってよい。これを平易な表現にしたのが、副題の「聴いて、考え、表現しよう」である。

本書では、新学習指導要領における音楽の読解力の育成と、その基盤となる言語活動による授業実践について述べた。そこでは、筆者が開発した音楽作文ワークシートを活用した授業の展開を記した。新学習指導要領による授業について、できるだけ具体的に提案することを試みたつもりである。

読者からのご批判をいただき、音楽科における学力の共通理解に寄与できれば幸いである。

平成 21 年 7 月

著者記す

目次

前書き

I 音楽の読解力と言語活動

- 1 音楽の読解力・・・・・・・・・・ 1
- 2 言語活動・・・・・・・・・・ 2
- 3 音楽の諸要素・・・・・・・・・・ 6
- 4 コンピュータ活用・・・・・・・・・・ 7

II 音楽の読解力を育てる授業

1 旋律

- (1) 提示, 反復・変化, 発展・・・・・・・・ 10
- (2) 問いと答え・・・・・・・・ 16
- (3) レガートとマルカート・・・・・・・・ 20
- (4) フレーズの最後の音価・・・・・・・・ 22

2 テクスチャ

- (1) 和声的音楽における声部の役割・ 24
- (2) 多声的音楽における声部の役割・ 28
- (3) 旋律と和声・・・・・・・・ 33
- (4) 旋律と伴奏・・・・・・・・ 36
- (5) ヘテロフォニー・・・・・・・・ 39
- (6) ポリリズム・・・・・・・・ 41

3	強弱	
(1)	曲の構成と強弱の変化	4 3
(2)	フレーズの細やかな強弱	4 6
(3)	休符の強弱表現	4 9
(4)	音の高さと強弱の段階的变化	5 1
4	速度	
(1)	速度の変化	5 3
(2)	適切な速度	5 7
5	音色	
(1)	曲想にあった歌声	5 8
(2)	歌曲の歌声	6 0
(3)	楽器の音色	6 3
(4)	音色の組み合わせ	6 5
6	歌詞	
(1)	歌詞の発音	6 6
(2)	歌詞と旋律	7 1
(3)	歌詞の内容	7 6
7	転調と曲想の変化	7 8
8	鑑賞	
(1)	諸要素の感受	8 1
(2)	批評	8 6
Ⅲ	言語力と表現力は相関する	9 2

I 音楽の読解力と言語活動

1 音楽の読解力

音楽の読解力とは、旋律、リズム、和声、強弱、速度、音色といった音楽の諸要素を感受し、それを記号化した楽譜を読み、表現できる力である。

音楽は、時間軸に音響を構成したものであり、その曲想は音楽の諸要素の働きから成り立っている。音楽の諸要素と曲想のかかわりが理解できると、自分で曲想を考えて表現できるようになる。

音楽の諸要素を読み取ることは、演奏における楽曲分析にあたる。それに基づき表現を工夫するのは、演奏解釈にあたる。音楽の読解力とは、演奏表現における楽曲分析と演奏解釈の考え方を音楽科の授業に適用したものである。

演奏解釈とは、楽曲分析で読み取った音楽の諸要素を根拠に、表現意図を述べるという論理的思考力であり、言語活動がその基盤となる。

2 言語活動

例えば音楽がだんだん強くなるという音楽的事象を、我々は聴いて感受するとともにクレシェンドという言葉を用いる。表現の工夫において、いちいちクレシェンドの曲想を歌わなくても、クレシェンドという言葉を用いることで強弱表現を考えたり、それを相手に伝えたりすることができる。

このように音楽的事象の言語化は、音楽的事象の名づけである。音楽的事象の名づけにより、音楽の諸要素を根拠に表現を考え、話し合うことが可能になる。音楽科の学習は言語活動が基盤となるのである。

本校では、校内合唱コンクールにおける学級練習が始まると、生徒たちは模造紙に歌詞を書いた掲示物を作成する。

これを見ると、主旋律と副旋律の歌詞を色分けしたり、*cresc.*、*f*、*p*といった音楽の記号や、自分たちが工夫した事柄を書き込んでいることが分かる。

学級練習を観察していると、この掲示物をもとに指揮者と生徒が話し合い、表現における共通理解をおこなっている。表現の工夫には、記号を基にした言語活動が必要であることを示す例である。

そこで授業における言語活動のために、音楽作文ワークシートを開発した。これは、楽曲から音楽の諸要素を読み取り、どう表現するかを短作文にまとめるしくみになっている。

このワークシートは、評価においても有用である。音楽科における表現の工夫に関しては、演奏評価（パフォーマンス評価）が主流である。

ところが表現技能が未熟な中学生は、技能に制限され、工夫すれども具現化できないことがある。また、表現の根拠を持たず、ただ積極的に声を出しているだけということもある。演奏評価だけでは、表現の工夫に関する評価としては、不十分なのである。

例えば、演奏評価において歌唱の技能C、表現の工夫Cではあるが、音楽作文の評価Aの生徒は、歌唱の技能C、表現の工夫Bと評定できる。演奏評価では見えない側面を音楽作文で評

価することが可能になる。


音楽科の学習に言語活動を導入することで、生徒が根拠を持って表現の工夫ができるようになるとともに、評価の精度が高くなる。

音楽作文ワークシート例

夢の世界を 芙龍明子 作詞 橋本祥路 作曲

【表現の工夫】

1 フレーズの表現

- (1) 下記の旋律を  を用いて、ホップ・ステップ・ジャンプの形に表しましょう。

楽譜

- (2) 「①ほほえみ ②かわして ③かたりあい」①～③のフレーズに強弱の変化をつけます。音の長さが長いほど、音のエネルギーは大きい。音の高さが高いほど音のエネルギーは大きいよ！

最も長いフレーズは 「かたりあい」です。

より長いフレーズは、音の エネルギー がより大きいので、①②に対して③のフレーズの重心が最も大きくなります。

2 パート（声部）の役割

ソプラノ，アルト，男声パート（声部）の役割について，
主旋律，副旋律という言葉を用いて説明しましょう。

ソプラノは主旋律です。副旋律に対して目立つように歌
います。

アルトと男声は副旋律です。主旋律に対してなじむように
歌います。

3 速度が遅くなる箇所を歌詞で指摘し「 」に書きまし
ょう。またそれを示す記号を書きましょう。

速度が遅くなる箇所「ゆめのせかいを」

速度が遅くなる記号 rit

4 曲の構成と強弱の変化

曲の構成と強弱の変化について説明しましょう。

曲の構成は a a' b b' です。

強弱の変化は m f m f f f です

だから，a a' に対して b, b' の部分を強く歌います。

【表現】 作文が書けたら，練習しよう。

【自己評価】 できた項目に○を書きましょう。

- 1 ホップ ステップ ジャンプの表現ができましたか。
- 2 曲全体の強弱を表現できましたか。
- 3 合唱で自分のパートの役割を考えて歌いましたか。

3 音楽の諸要素

本稿では、音楽の諸要素の中から、以下の7つについて述べた。

- (1) 旋律
- (2) テクスチャ
- (3) 強弱
- (4) 速度
- (5) 音色
- (6) 歌詞
- (7) 転調

この要素ごとにワークシートと授業の展開を紹介した。授業の展開はその要素に関わる部分だけを取り出して記述してある。ワークシートも同様の部分のみ示してある。

音楽の諸要素は、表現のために学習するものであるから、それだけ取り出して学習しても意味はない。

表現を工夫する楽しい学習活動を通して、音楽の諸要素を学ぶべきである。

4 コンピュータ活用

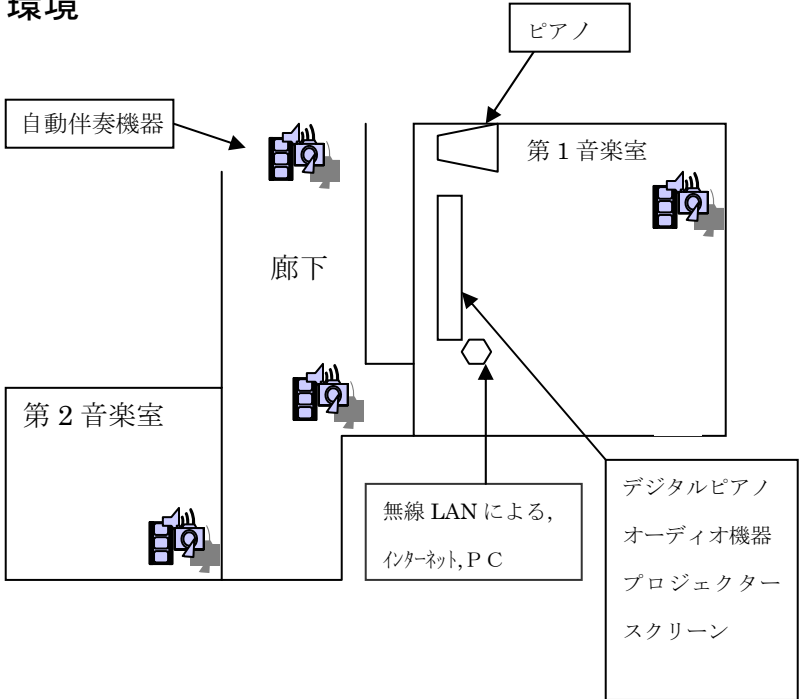
授業の展開には、自動伴奏で練習する記述がある。授業ではミュージックデータによる自動伴奏機器を4箇所配置し、練習に活用している。

ミュージックデータとは、コンピュータやデジタル楽器で作成したデータで、専用の再生機（自動伴奏機器）で再生する。

例えば、グループに1台で、グループ練習に用いる。またリコーダーの学習において、テンポを複数設定することで、習熟度に対応できる。さらに発展教材のコーナーを設ける活用方法もある。

自動伴奏機器を用いて、楽曲の練習を自分たちがおこなうという自覚を持つと授業が活気づく。教師の伴奏でひたすら練習しているのでは、練習の主導権は教師にある。楽曲を覚え、表現を工夫するためには、生徒に主導権のある学習環境が必要である。

環境



デジタルピアノとノート型PCを連結した自動演奏で、一斉指導における歌唱、器楽の伴奏をおこなう。また小集団練習用に自動伴奏機器を4箇所配置した。ミュージックデータは、音楽ソフトによるデータ入力やデジタルピアノによるリアルタイム入力を用いて作成している。

Ⅱ

音楽の読解力を育てる授業

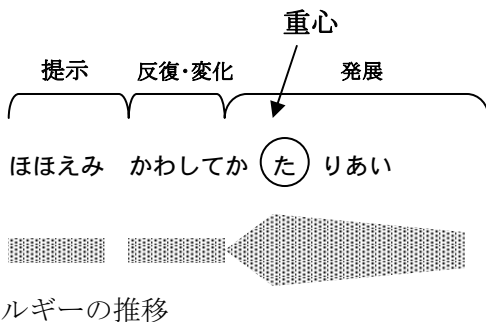
1 旋 律

旋律の表現において最も大切なものは、フレージングである。楽曲は動機を繰り返し、展開させることで構成されている。この構成のしくみを理解すると、エネルギーの推移がわかり、表現意図を明確にすることができる。

また音価（音の長さ）の長短を理解することで、レガートやマルカートといった、フレーズの表情を表現することができる。

(1) 提示、反復・変化、発展

ア 混声3部合唱「夢の世界を」 芙龍明子 詞
橋本祥路 曲



<音楽の諸要素>

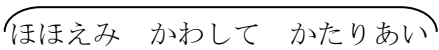
提示, 反復・変化に比べ, 発展はより長い動機であるため, エネルギーはより大きい。その中で最も高い音が, 最大エネルギーを持っているので重心となる。

提示, 反復・変化, 発展を走り幅跳びの体験になぞらえて, ホップ・ステップ・ジャンプと表すと, 生徒はエネルギーの推移を理解しやすい。

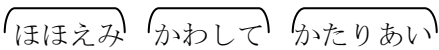
<授業の展開>

C 『夢の世界を』を合唱する。

T 「どちらの表現が, よいですか。」

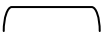
範唱1 ♪ 



範唱2 ♪ 



C 「2番目です。」

T 「この旋律を  を用いて, ホップ・ステップ・ジャンプの形に表しましょう。」

T 「書いた通り歌います。」

C ♪ 〔ほほえみ〕 〔かわして〕 〔かたりあい〕

〔おちばを〕 〔ふんで〕 〔あるいたね〕

T 『①ほほえみ ②かわして ③かたりあい』

①～③のフレーズに、強弱の変化をつけます。」

T 「最も長いフレーズは、どれでしょう。」

C 「③です。」

T 「そうです。長いフレーズのエネルギーは、
より大きい？小さい？」

C 「より大きい。」

T 「重心は、①～③のどれでしょう。」

C 「③です。」

T 「音楽作文ワークシートにまとめなさい。」

ワークシート

最も長いフレーズは 「かたりあい」 です。

より長いフレーズは、音の エネルギー がより大きいので、①②に対して③のフレーズの重心が最も大きくなります。

T 「みんなで読みます。」

C 一斉音読

T 「通して歌います。起立。」

C 合唱する。

提示，反復・変化，発展を言語化することで，表現意図に基づいて，歌唱ができるようになった。平板な歌い方から，細やかな起伏のある歌い方に変わったことが確認できた。

授業では，範唱による2つの演奏方法を比較し，よりよい方法を識別させた。聴く経験による内部情報の蓄積を基に，言語で考えさせるのである。音楽科における言語活動は，聴覚による経験を言語化することが基本である。

イ 混声2部合唱「夏の日の贈りもの」高木あきこ 詞
加賀清孝 曲

<諸要素の読解>

提示，反復・変化，発展（ホップ・ステップ・ジャンプ）を理解できると，同じしくみの楽曲を読解

できるようになる。先述した『夢の世界を』は、動機
の単位における提示、反復・変化、発展であった
が、この楽曲ではフレーズの単位でエネルギーの推
移を読解させる。

<授業の展開>

C『夏の日のごりもの』を合唱する。

T「フレーズのしくみを、聴き取ります。」

T範唱♪ ①ひとは まちにもどり

②やまは あきのいろよ

③かたにあかいとんぼとまれば

おもいではかぜのなか

T「ワークシートを見なさい。」

T「①②③を比べて、気がついたことを発表しなさい。」

C「①②に比べて、③は長さが長いです。」

ワークシート

①ひとは まちにもどり



②やまは あきのいろよ



③かたにあかいとんぼとまれば おもいではかぜのなか



- T 「そうですね。長いフレーズのエネルギーは、
より大きい？小さい？」
- C 「より大きいです。」
- T 「③は①②より、エネルギーが必要です。」
- T 範唱 ♪①～③
- T 「このフレーズの表現について、ホップ・ステップ・
ジャンプの言葉を用いて説明しましょう。」
- C ワークシートに音楽作文をまとめる。
*早く書けた数名に発表させる。
- T 「書けた人は、自動伴奏で練習しなさい。」

(2) 問いと答え

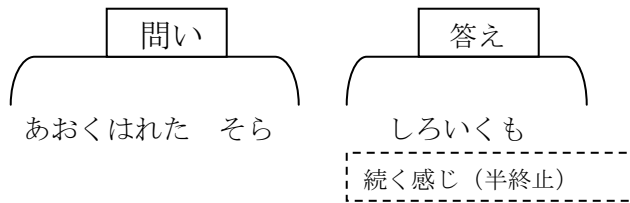
ア 斉唱「主は冷たい土の中に」武井君子 詞
フォスター曲

<音楽の諸要素>

旋律の構成が、問いと答えであることを理解し、曲
想を考えて表現する。

問いに対する答えが半終止の場合、エネルギーがド
ミナントからトニックに移行する感覚，“続く感じ”

になる。答えが終止の場合は、エネルギーがトニックで放出される感覚，“終わる感じ”となる。答えの終止感の違いを考えて表現する。



<授業の展開>

C 『主は冷たい土の中に』を斉唱する。

T 「問いは、どこですか。歌詞で指摘しなさい。」

C 「『あおくはれたそら』です。」

T 「その通り。答えは続く感じ？終わる感じ？」

T 範唱♪「しろい くも」

C 「続く感じです。」

T 「そうです。続きを歌います。答えは続く感じ？
終わる感じ？」

T 範唱♪「そよかぜやさしく むかしをかたる」

C 「終わる感じです。」

T 「その通り。終わる感じですね。みんなすばらしい音感を持っているね。」

C 斉唱する。

終止，半終止の感受は，小学校の音楽経験から，既にできるようになっている。それを言語化することで，問いと答えという旋律のしくみがわかり，フレージングを判断できるようになる。

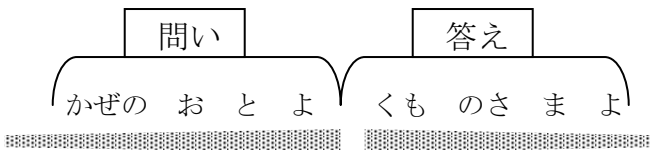
言語化することは，音楽的事象の名づけであるから，習得したフレージングの知識を，他の楽曲に活用することできるようになる。

イ 斉唱「浜辺の歌」林古溪 詞 成田為三 曲

<音楽の諸要素>

問いは，答えに向けてだんだん強くなり，答えの最初が重心となり，徐々に弱くなる。

問いと答えにおける，エネルギーの推移を理解することで，細やかな強弱表現を考えることができる。



エネルギーの推移

<授業の展開>

T 「問いはどこですか。歌詞で指摘しなさい。」

C 「『かぜのおとよ』です。」

T 「問いの強弱の変化を、一言で表しなさい。」

C 「だんだん強くなる。」

C 「だんだん大きくなる」

T 「問いの強弱の変化は、だんだん強くなる。」

C 復唱する。

T 「音楽で“強い”とは、音量と力強い音色、音の形が結びついたものなのです。“大きい”は、“強い”の一要素です。」

T 「では答えの強弱の変化は？」

C 「だんだん弱くなる。」

T 「そうです。聴きましょう。」

T 範唱 ♪ 「かぜのおとよ くものさまよ」

注 f, pを「大きい」「小さい」と表現する生徒は多い。強弱は音の大きさ含めた音の表情であることを、繰り返し学習する必要がある。

T 「歌います。」

C ♪ かぜのおとよ くものさまよ



T「すばらしい。自動伴奏に合わせて個人練習をなさい。」

問いと答えの形には、様々な工夫がされている。強弱の変化も、その一つである。

(3) レガートとマルカート

<音楽の諸要素>

音価の長短で、フレーズの性格は異なる。音の長さが短めであれば、エネルギーはより小さいので、軽さ、快活さを表現できる。音の長さが長めであれば、よりエネルギーは大きいので、重さ、叙情性を表現できる。

混声2部合唱「太陽がくれた季節」 山川啓介 詞
いずみたく 曲

きみ は なにを いま



エネルギーの推移

T「どちらの歌い方が、よいでしょう。」

範唱A ♪きみ は なにを いま (マルカート)



範唱B ♪きみ は なにを いま (レガート)



C 「A！」

T 「そうですね。Aはマルカート， Bはレガート。」

C 復唱する。

T 「マルカート， はっきりと レガート， なめらかに」

C 復唱する。

T 「起立 マルカート， レガートを隣の人に説明したら， 座りなさい。」

C 説明→着席

T 「どちらがよいですか。」

範唱A ♪ さくら さくら やよいのそらは


範唱B ♪ さくら さくら やよいのそら は


C 「A！」

T 「そうですね。このように音の長さを変えると， 曲想が変わります。」

T 「『太陽がくれた季節』は，マルカート？レガート？」

C 「マルカートです。」

T 「歌いましょう。起立。」

C 『太陽がくれた季節』を合唱する。

(4) フレーズの最後の音価

フレーズの最後の音価は、そのフレーズの性格を決定している。フレーズのエネルギーが、放出される分の音価が必要であるからだ。相対的に音価が短いと軽い感じになり、長いと重さを感じるといえる。

そこでフレーズの最後の音価を、正確に演奏させることで、その音楽的な性格を理解させる。

2部合唱「未来への飛翔」長井理佳 詞 長谷部匡俊 曲

T 「どちらが、よいでしょう。」

範唱A ♪せまるゆうぐれ (7拍)



範唱B ♪せまるゆうぐれ (1拍)



C 「Aです。」

T 「なぜですか。」

C 「最後の音を伸ばしているから。」

T 「もっと正確に。」

C 「最後の音を、きちんと伸ばしているからです。」

T 「最後の音は、何拍ですか。」

C 「7拍です。」

T 「フレーズの最後の音を7拍で歌います。」

C 歌唱♪

T 「ではBのように、フレーズの最後の音を1拍で歌います。」

C 歌唱♪ (笑い)

T 「これは変ですね。フレーズの最後の音は、その旋律の性格を決定するのです。」

T 「フレーズの終わりの音を、7拍で歌いましょう。」

C 『未来への飛翔』を合唱する。

2 テクスチャ

テクスチャは織物の意味で、転じて音楽では、旋律の重なりをいう。

旋律の重なり方は、大きく分けて、和声的音楽と多声的音楽に分けられる。主旋律に対して従属的に副旋律が重なる形を和声的音楽、独立して重なる形を多声的音楽という。

和声のみならず、日本の雅楽などに見られるヘテロフォニーやガムランなどのポリリズムによる旋律の重なりも、総称してテクスチャという。

(1) 和声的音楽における声部（パート）の役割

<音楽の諸要素>

和声的音楽における声部の役割の学習では、「主旋律は副旋律に対して、目立つように演奏する。」「副旋律は主旋律に対して、なじむように演奏する。」という説明が有効である。

この曲では、ソプラノが主旋律であるから、副旋律であるアルト、男声に「ソプラノはよく聴こえましたか。」と問うとよい。

合唱では、教師が指揮者よろしくあれこれ指示を出す
すと、言われたとおりの演奏しかできない。生徒に判
断させると、自分たちで考えて歌うようになる。

混声 3 部合唱「夢の世界を」 芙龍明子 詞
橋本祥路 曲

- T 「主旋律はどのパートですか。」
C 「女声です。」
C 「ソプラノです。」
T 「ソプラノですね。ソプラノの役割は？」
C 「目立つように歌う。」
T 「なぜですか。」
C 「主旋律だからです。」
T 「ソプラノは、目立つように歌います。なぜなら
主旋律だからです。」
C 復唱する。
T 「では、アルトや男声の役割は？」
C 「主旋律に、なじむように歌います。」
T 「なぜですか。」
C 「副旋律だからです。」
T 「アルトと男声は、ソプラノになじむように歌い

ます。副旋律だからです。」

C 復唱する。

T 「パート（声部）の役割について、音楽作文にまとめなさい。」

ワークシート

パート（声部）の役割

ソプラノ、アルト、男声、それぞれのパート（声部）の役割について、主旋律、副旋律という言葉を用いて説明しましょう。

T 「書き終えた人から、自動伴奏に合わせて、3回練習をこなさい。歌い終わったら、合唱隊形に集合します。」

C 自動伴奏で小集団合唱練習をする。

C 全員で合唱する。

T 「ソプラノに聞きます。アルト、男声は聴こえましたか。」

C 「聴こえました。」

T 「アルトと男声に聞きます。主旋律のソプラノは、よく聴こえましたか。」

C 「あまり聴こえません。」

- T 「ソプラノは主旋律なので、アルトと男声に、もっと声を届ける必要があります。もう一度。」
- C 合唱♪「さあでかけよう おもいでのあふれる
みちをかけぬけ」
- T 「アルトと男声に聞きます。主旋律のソプラノは、よく聴こえましたか。」
- C 「聴こえました。」
- T 「とてもよいバランスです。通して歌いましょう。」
- C 『夢の世界を』を合唱する。

合唱のバランスは、生徒同士の相互評価を中心に、判断させる。女声が小さい場合、「男声に声を届けなさい。」という指示は有効である。女子は、男子のためには喜んで歌うが、教師のために歌うことはない。

(2) 多声的音楽における声部（パート）の役割

<音楽の諸要素>

多声的音楽における声部の役割の学習では、「主旋律に対して副旋律は、かけあうように演奏する。」という説明が有効である。

多声的音楽は、副旋律が主旋律の模倣的な形で重なる場合と、全く異なる対旋律が重なる場合がある。模倣的に重なる場合は「主旋律のこだまのように演奏する。」という説明がよい。

ア 混声2合唱「あの鳥のように」 平野祐香里 詞
大熊崇子 曲

<授業の展開>

T 『夢の世界を』と『あの鳥のように』を聴きます。『ラヴァース コンチェルト (多声的な合唱)』と旋律の重なり方が同じ曲は、どちらでしょう。またその理由を書きなさい。」

C 『夢の世界を』と『あの鳥のように』を聴く。

C 『あの鳥のように』です。」

T 「その理由は？ワークシートに書いたことを発表しなさい。」

C 「旋律が別々だからです。」

C 「旋律の動きが、それぞれ違う動きだからです。」

C 「旋律が、みな独立しているからです。」

T 「こうした音楽を、何といいますか。」

C 「多声的音楽です。」

T「そうです。では主旋律と副旋律は、どう歌いますか。」

C「主旋律と副旋律は、かけあうように歌います。」

T「その通り。隣の人と主旋律、副旋律に分かれなさい。」

C『あの鳥のように』を合唱する。

多声的音楽は、独立した声部がかけあう面白さを持っているので、声部が拮抗することを意識して歌わせる。

さらに強弱記号や歌詞から、どちらをより目立たせるか判断させるとよい。

イ 混声2部合唱「夏の日の贈り物」高木あきこ 詞
加賀清孝 曲

T「主旋律と多声的な副旋律のバランスを、どう表現しますか。根拠を示し、文章に表しなさい。」

ワークシート

(1) 副旋律の歌詞は _____ ルルル _____ です。

(2) 主旋律の強弱は m f 副旋律の強弱は m p です。

(3) 主旋律と多声的な副旋律のバランスをどう表現しますか。根拠を示し、文章に表しましょう。

T 「書けた人は、自動伴奏で3回練習をします。

終わったら合唱隊形に並びます。」

C 『夏の日』の贈り物』合唱する。

*音楽作文の評価基準 (1) (2) から下記のような内容を導き出していけばよい。

副旋律の歌詞は、「ルルル」である。

主旋律はm f、副旋律はm pである。

以上より、主旋律は目立つように、副旋律は主旋律に対してなじむように歌う。

T 「和声的音楽ですか，多声的音楽ですか。」

C 「多声的音楽です。」

T 「そうです。副旋律は主旋律の真似をして，追いかけるような形です。副旋律は，主旋律のこだまのように歌います。」

C 全員で合唱する。♪やまは たかくそびえ～

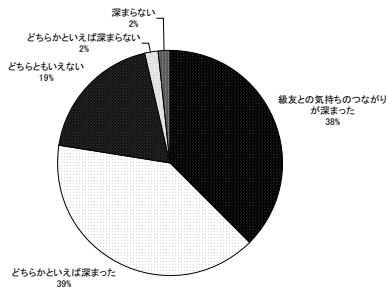
T 「女声と同じ強さで，歌えましたか。(男子挙手)」

T 「男声は，よく聴こえましたか。(女子挙手)」

T 「とてもよいバランスでした。合唱のよいところは，このように協力してつくりあげることなんだよ。」

- * 声部の役割を理解することで，声の強さ，大きさを考え，協力して歌えるようになる。合唱は協力の産物であり，エンカウンターであることを生徒に伝えるとよい。

級友との気持ちのつながり



これは、平成 16 年度に実施した合唱発表（合唱コンクールではない）後の、質問紙による調査結果である。合唱の練習を通して「級友との気持ちのつながり」が深まったと、77%の生徒が答えている。協力して、音楽表現を工夫することで、学級の親和欲求が高くなると考えられる。合唱を通して学級がまとまるのは、こうした親和欲求の高まりによるものである。

(3) 旋律と和声 (創作)

この授業は、生徒1人1台のDTMを用いた創作学習、「旋律に合う和音を見つけよう」である。

2つ以上の音の重なりを和音といいます

92
AahChoir

ハ長調 I IV Vの和音

ハ長調 I の和音
コードネーム C

ハ長調 IV の和音
コードネーム F

ハ長調 V の和音
コードネーム G

ハ長調の和音

I	II	III	IV
C	Dm	Em	F

V	VI	VII
G	Am	

* DTMによるデスクトップ上の画面は
実際に“音が出るワークシート”である。

<音楽の諸要素>

和声の感受と和音記号、コードネームの関係を学習する。DTMを用いた、“音の出るワークシート”による創作学習である。コードネームを入力すると、その和音に基づく伴奏が再生される。それが旋律と合っているか、判断をする。

旋律に合う和音を見つけることは、その前後のつながりから、判断する必要がある。つまり、合う和音を見つけることは、和声を理解することになる。

授業は、ヘッドフォンを用いた個別学習環境でおこなった。個別に解答を点検し、評価するのは、机間指導で教師がおこなう

最初に主要3和音、次に副3和音を学習する。これは主要3和音の和声感を獲得した後に、副3和音に和声感を感じることができるからである。

「夢の世界を(1)」で、主要3和音であるI (C)、IV (F)、V (G)を見つけた後、「夢の世界を(2)」で副3和音III (Em)、VI (Am)を見つける。和声の流れの中で、和音を見つけることを容易にするため、学習課題を8小節に限定した。

(4) 旋律と伴奏 (リズム)

<音楽の諸要素>

伴奏を聴き、表現をおこなうのは、アンサンブルの基本である。その伴奏はどのような特徴をもっているかを言語化することで、音楽の諸要素と曲想のかかわりを理解できる。

伴奏の特徴は、リズム、音の動きなどの言葉を用いて表現させる。

ア 混声3部合唱「翼をください」 山上路夫 詞
村井邦彦 曲

ワークシート

a は叙情的な旋律で、b は躍動的な旋律です。a, b それぞれの伴奏を聴き、それぞれの特徴を自分の言葉で説明しましょう。

a の伴奏は _____

b の伴奏は, _____

<授業の展開>

T 範唱 ♪

T 「a は叙情的な旋律で、 b は躍動的な旋律です。」

T 「a, b それぞれの伴奏を聴き、特徴を自分の言葉で説明しましょう。」

数名に発表させる。

C 「a の伴奏は、穏やかです。」

C 「a の伴奏は、音の動きが遅いです。」

C 「a の伴奏は、同じリズムの繰り返しです。」

C 「b の伴奏は、激しいです。」

C 「b の伴奏は、テンポが速いです。」

C 「b の伴奏は、音の動きが細かいです。」

*同じテンポでも、細かいリズムや音の動きを「速い」、ゆったりした音の動きを「遅い」と表現する生徒は多い。テンポと音の動きの違いを教える必要がある。

イ 伴奏（リズム）の組み合わせを考えよう（編曲）

1人1台のDTMによる編曲の学習である。「翼をください」のミュージックデータを用いて、前半と後半が対照的になるよう、伴奏リズムを設定する。

<授業の展開>

T「前半，後半に異なるリズムの伴奏を設定します。」

T「リズムパレットから視聴し，入力ください。時間は10分です。」

C 入力ー視聴（10分）

T「最も気に入った組み合わせを設定ください。」

T「友達と聴きあってみましょう。」

*前半と後半が対照的な伴奏に設定できればよい。様々なリズムパターンを試すことで，多様なリズムを感受できる。

（5）ヘテロフォニー

<音楽の諸要素>

雅楽における旋律の重なりは，「天，空，地」の声の重なりであり，いわゆる主旋律，和声という概念ではない。打楽器の重なりは，微妙なずれを伴い，旋律では，ヘテロフォニーが生じる。この微妙なずれやヘテロフォニーは，「すれる」といい，後の邦楽の特徴の一つとなる。

雅楽「越天楽」

ヘテロフォニー

龍笛(空の声)
箏篳(地の声)
笙(天の声)
鉦鼓
鞆鼓
太鼓

Harmonica
TnklBoj
WoodBlok

打楽器のずれ

ミュージックデータとプロジェクターで写した楽譜を用いて、ずれる箇所を見つける学習をおこなった。その後、「越天楽」を鑑賞した。

<授業の展開>

T 「雅楽の特徴のひとつは、ずれることです。竜笛、箏篳の旋律が、ずれたところで手を挙げなさい。」

*データを流す。(プロジェクターで楽譜を投影する。)

C 挙手する。

T 「よくわかりました。すばらしい音感です。」

T 「では、打楽器がずれたところで、手を挙げなさい。」

*データを流す。(プロジェクターで楽譜を投影す

る。)

C 挙手する。

T 「その通りです。みんな手を出します。1回だけ手をたたきます。さんはい。」

C 手をたたく。(微妙にずれる。)

T 「この自然なずれを美しいと、昔の日本人は感じたのです。これを、すれるといいます。」

T 「雅楽『越天楽』を聴きましょう。」

* 「すれる」は、後の日本音楽に特徴的に見られるしくみなので、三曲合奏などで同じ要素を見出す学習に発展することもできるであろう。

(6) ポリリズム

<音楽の諸要素>

ガムランの特徴の1つは、異なるリズムをもつ旋律が重なり、全く別な旋律が生まれることである。

ミュージックデータは、それぞれの声部を別々に再生できる(装飾1, 2)。また、それらを重ねて再生することができる。異なる声部が重なることで、

新たな旋律が生まれることを理解する。

ガムランのしくみ 重なりから生まれる響き

The image shows a musical score for four parts of a Gamelan ensemble. The parts are labeled on the left as 装飾1 (Ornament 1), 装飾2 (Ornament 2), 旋律 (Melody), and ギョウグ (Gong). The instruments are labeled above the staves: MusicBox for the first two parts, Tububel for the melody part, and Gong for the bottom part. The score consists of four staves with musical notation including notes, rests, and vertical bar lines. The notation is sparse, focusing on specific rhythmic and melodic elements.

<授業の展開>

T「装飾1を聴きます。」

A short musical phrase on a five-line staff, representing Ornament 1. It consists of several notes and rests, with a final note that has a sharp upward-pointing stem.

T「装飾2を聴きます。」

A short musical phrase on a five-line staff, representing Ornament 2. It consists of several notes and rests, with a final note that has a sharp upward-pointing stem.

T 「2つを重ねて聴きます。」



*このように聴こえる。

T 「2つを重ねて聴くと、どのようになりましたか。
説明しましょう。」

C 発表する。

*2つの異なる旋律から、新しい旋律が生まれる旨を、
自分の言葉で表現できればよい。

3 強 弱

(1) 曲の構成と強弱の変化

<音楽の諸要素>

楽曲は、旋律を繰り返し、変化、発展させたり、
対照的な旋律を配置するなどの手法で構成され
ている。楽曲の強弱も、その構成に沿って変化が
つけられることが多い。

構成を理解すると、楽曲全体の強弱変化を、鳥

瞰図的に把握することができる。それに基づき、
強弱の変化を工夫することができる。

斉唱「主は冷たい土の中に」フォスター 曲

<授業の展開>

T 第1フレーズをピアノで弾く。

T 「これを a とします。第2フレーズは何でしょう。」

第2フレーズをピアノで弾く。

T 「a と全く同じ、似ている、全く違う。(挙手させる。)」

C 「似ている。」

T 「そうです。ワークシートに a' と書きなさい。」
第3フレーズをピアノで弾く。

T 「a と全く同じ、似ている、全く違う。(挙手させる。)」

C 「全く違う。」

T 「そうです。a の次のアルファベットは？
(C 「b !」) b と書きなさい。」

第4フレーズをピアノで弾く。

T 「a, a' と全く同じ、似ている、全く違う。(挙手

させる。)」

C 「a と同じ」

C 「a' と同じ」

T 「a' です。第 2 フレーズと全く同じでしたね。」

ワークシート

曲の構成は,	a	a'	b	a'	です。
強弱は,	mp	mp	mf	mp	です。

他より強く表現するフレーズは、 b です。

根拠となる記号は m f です。

T 「曲の構成を読みなさい。」

C 「曲の構成は、 a, a', b, a' です。」

T 「では、強弱はどう変化しますか。ワークシート
に書きなさい。」

C 教科書の楽譜から強弱記号を見つけ、ワークシ
ートに記入する。

T 「みんなで読みましょう。」

C 「強弱の変化は、 m p, m p, m f, m p です。」

T 「より強く歌うのは、どこですか。」

C 「bです。」

T 「なぜですか。」

C 「他の部分はm p だけど、bはm f だからです。」

T 「その通り。私ならこう歌います。」

範唱♪

T 「みなさんは、どう歌いますか。」

C 斉唱♪

*この指導を続けていくと、曲の構成を、即、判断できるようになる。

(2) フレーズの細やかな強弱

フレーズの細やかな強弱変化を、強弱記号と範唱の聴取から考える。表現の根拠がわかると、自ら考えて細やかな表現ができる。

ア 斉唱「夏の思い出」江間章子 詞 中田喜直 曲

ワークシート

曲の構成は、

a	a	b	a'
---	---	---	----

です。

bのフレーズの強弱の変化について、根拠となる記号を示して説明しましょう。

<授業の展開>

T 範唱♪「みずばしょうのはなが さいている ゆめ
みてさいている みずのほとり」

T 「『みずばしょうのはなが』 始まりの強さは？」

C 「m p」

T 「その意味は？」

C 「やや弱く。」

T 「強弱の変化を説明しなさい。」

C 「強くなって弱くなる。」

T 「それを示す記号を押さえなさい。何と読みますか。」

C 「クレシェンドとデクレシェンド。」

T 「『さいている』の強さは？」

C 「p p」

C 「p が2つ。」

* 小学校でピアノシモを学習していなかった生徒が多かった。

T 「ピアノシモと読みます。とても弱く。」

T 「bの強弱の変化を、音楽作文に表しなさい。」

例「水芭蕉の花が」は、やや弱くはじまり、だんだん強くなって弱くなる。それを示す記号はm p, < >である。

「咲いている」は、とても弱く歌う。それを示す記号は、p p
である。

T 「私なら、こう歌います。範唱♪」

T 「みなさんは、どう歌いますか。」

C 斉唱する。

T 「自動伴奏で練習しなさい。」

*この学習を経ると次のような学習課題を、生徒が自力で解決できるようになる。

イ 混声3部合唱「翼をください」 山上路夫 詞
村井邦彦 曲

a と a' の強弱の変化の違いを説明しましょう。

(3) 休符の強弱表現

<音楽の諸要素>

休符は“休み”ではなく、音のない瞬間を表している。音のない瞬間にも、エネルギーが蓄積され、続く音の性格を決定する。わかりやすい例では、ベートーヴェンの交響曲第5番1楽章冒頭の、有名な「運命の主題」があげられる。そこの8分休符のエネルギーのため具合によって、様々な演奏が生まれ

る。

斉唱「花の街」江間章子 詞 團伊玖磨 曲

(教育芸術社中学生の音楽2,3 下実践編 p 98を基に作成。)

ワークシート

休符の強弱表現

=



七色の谷をこえて



流れて行く



風のリボン



輪になって



輪になって



駆けて行ったよ



春よ 春よと




駆けて行ったよ



の大きさは、重心の大きさ(音のエネルギーの大きさ)を表しています。

『わになって、わになって かけていったよ』の部分の重心の大きさと強弱の変化の関係について、説明しましょう。

<授業の展開>

T 「 の大きさは、重心の大きさ(音のエネルギーの大きさ)を表しています。」

T 「ワークシートを見て、重心の変化を表現しましょう。」

T 範唱 ♪

C 斉唱 ♪

T 「『わになって、わになって かけていったよ』の重心の変化について説明しなさい。」

C 「重心はだんだん大きくなります。」

T 「重心の大きさと強弱の変化の関係について、説明しましょう。」

C ワークシートに書く。

*数名に発表させる

T 「書き終わった人から、自動伴奏で練習しなさい。」

(4) 音の高さと強弱の段階的変化

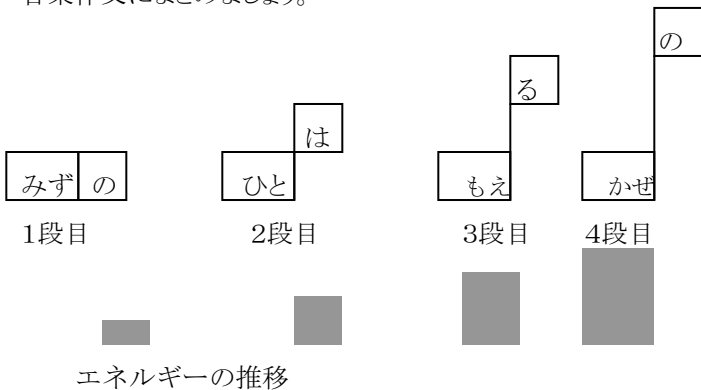
<音楽の諸要素>

音は高いほうが、より大きなエネルギーを持っている。
音の高さが高くなるにつれ、強弱も強くなる。

(教育芸術社中学生の音楽2,3下p11より作成。)

ア 風の中の青春 芙龍明子 詞 浦田健次郎 曲
ワークシート

この曲は4段になっています。段ごとの強弱の変化について、
音楽作文にまとめましょう。



<授業の展開>

T 「1段目から4段目にかけて、音の高さは、どのように変化していますか。」

C 「だんだん高くなっています。」

T 「高い音のエネルギーは、より大きい？小さい？」

C 「より大きいです。」

T 「段ごとの強弱の変化について、音楽作文にまとめましょう。」

イ 鑑賞「魔王」(シューベルト)

<授業の展開>

T 「『子』の声の高さは、どのように変化していますか。」

C 「だんだん高くなっています。」

T 「では、強さはどのように変化していますか。」

C 『魔王』を聴く。

T 「ワークシートに書きなさい。」

発表させる。

C 「だんだん強くなります。」

T 「『子』が最も強くなるところを、歌詞で指摘しなさい。」

C 「『ぼうやをつかんでつれていく』です。」

4 速度

(1) 速度の変化

<音楽の諸要素>

速度の変化には、アツチェランド、リタルダンド、アテンポ、フェルマータなどがある。演奏を通して、その音楽的事象を記号で把握する。

また、速度が速くなる、遅くなることによる曲想の変化を言語化することで、エネルギーの推移を理解することができる。

ア 「花」武島羽衣 詞 滝廉太郎 曲

<授業の展開>

C 歌唱 ♪「ながめを なにに $\textcircled{\bullet}$ たとうべ(rit)

き(a tempo)」


T「(なに)に」は、長く伸ばしました。それを示す記号を押さえない。隣と確認。」

T「(板書) $\textcircled{\bullet}$ この記号が正解です。」

T「『たとうべ』の部分の速さは、どのように変化しましたか。」

- C 「遅くなる。」
- C 「ゆっくりになる。」
- T 「それを示す記号は？」
- C 「リタルダンド (rit.) です。」
- T 「そうです。rit.だんだん遅く。」
- C 復唱する。
- T 「(たとうべ き) の部分は、もとの速さに戻りました。それを示す記号を押さえない。隣と確認。」
- T 「(a tempo : 板書) これが正解です。a tempo, もとの速さに戻す。」
- C 復唱する。
- T 「速度の変化について、歌詞と記号を示しながら説明しましょう。」
- C ワークシートに書く。
発表する。
- T 「3番を通して歌います。」
- C 3番を斉唱する。

ワークシート

「(なに) に」の部分は、音を長く伸ばします。それを示す記号は  です。

「たとうべ」の部分は、だんだん遅くします。それを示す記号は r i t. です。

「(たとうべ) き」の部分は、もとの速さに戻します。それを示す記号は a tempo です。

イ 「カリンカ」ロシア民謡

<授業の展開>

『カリンカ』を合唱する。

T 「Aの部分のテンポの変化について、説明しなさい。」


C 発表する。

T 「Bのテンポと強弱の変化について、説明しなさい。」

C 発表する。

ワークシート

テンポ（速度）の変化

- (1) Aの部分は、テンポが だんだん速く なります。
それを表す記号は accel. です。
- (2) Bの部分は、テンポが だんだん速く なるとともに、強弱が (だんだん) 強く なっていきます。
それを表す記号は cresc. ed accel. です。
- (3) rit をマーカーで塗りましょう。
意味は だんだん遅く です。
- (4)  を○で囲みましょう。
意味は その音を長くのばす です。

T 「『カリンカ』の曲想は、気分が高揚する部分と、落ち着いた部分で構成されています。それぞれのテンポと強弱の変化について、説明しなさい。」

C 発表する。

T 「通して歌います。」

C 『カリンカ』を合唱する。

ワークシート

「カリンカ」は、気分が高揚する部分と落ち着く部分で構成されています。

それぞれのテンポと強弱の変化について、説明しましょう。

テンポがだんだん速くなり、強弱も強くなると気分は 高揚 します。

テンポがだんだん遅くなり、強弱も弱くなると気分は 落ち着き ます。

(2) 適切な速度

器楽や歌唱のグループ練習では、自動伴奏機器を用いている。

器楽の練習では、技能の習熟にあわせてゆっくりした速度と本来の速度に設定し、技能の習熟にあった演奏速度を選択させている。歌唱では、より自分たちのグループが歌いやすい速度を見つけさせている。

こうした活動を通して、自分にとって適切な速度を判断することができるようになる。

5 音色

(1) 曲想にあった歌声

音楽様式ごとに歌声は、それぞれの特徴を持つ。音楽科の学習では、ベルカントや長唄など、様々な歌唱技能の習得を目的としていない。その曲にふさわしい歌声を考えて歌うことを目指している。

ワークシート

歌い方は、レガート（なめらかに）、マルカート（はっきりと）に大きく分けられます。

bの部分はマルカートで歌い、

cの部分はレガートで歌います。

私はこの曲を、 _____ 歌声で歌います。

明るい声、元気な声など、この曲に合う歌声を自分の言葉で書きましょう。

<授業の展開>

T 「歌声は、力強い、優しい、明るい、暗い、小さい、大きいなど、様々な状態があります。
曲を歌うとき、どのような歌声で歌うか、自分で決めることはとても大切です。」

T 「この曲は、どのような声で歌いますか。自分の言葉で書きなさい。」
発表させる。

C 「私はこの曲を、明るい声で歌います。」

C 「私はこの曲を、元気で明るい声で歌います。」

C 「私はこの曲を、力強い声で歌います。」

C 「私はこの曲を、はっきりした声で歌います。」

T 「すばらしい。自分の言葉でよく表されています。
歌いましょう。」

C 歌唱する。

*自分の歌う声を言葉で表すと曲想にあった声を自覚して出すようになる。

(2) 歌曲の歌声

ア 鑑賞「カンツォーネ」

<音楽の諸要素>

音色は、音を色にたとえたものであるから、もともと言葉では表しにくい。カンツォーネの鑑賞を通して、ベルカント唱法の特徴を、自分の言葉で表すことができればよい。

ワークシート

「オーソレミオ」「フニクリ フニクラ」を聴き、カンツォーネの歌声の特徴を、自分の言葉で表してみよう。

<授業の展開>

T「カンツォーネの歌声を、一言で表しなさい。」

C「明るい声です。」

C「強い声です。」

C「力強く響く声です。」

C「輝きのある声です。」

イ 鑑賞「魔王」(シューベルト)

<音楽の諸要素>

この曲は1人の歌手が、声の高さ、声色、声の強弱の違いで、3人の登場人物を演じ分けるしくみになっている。そこで声の高さ、強さから、登場人物は誰かを判断させる。また魔王の声色を、自分の言葉で表現させる。

<授業の展開>

C 『魔王』の前半を聴く。

T 「登場人物で、最も低い声で表現されているのは、誰ですか。」

T 「最も強い声で表現されているのは、誰ですか。」

C ワークシートに記入する
発表させる。

T 「魔王の声は、どのような声でしょう。自分の言葉で表しましょう。」

C 「誘うような声です。」

C 「やさしい声です。」

C 「あやしい声です。」

T「よく自分の言葉で表現できています。このように自分の言葉でワークシートに書きましょう。」

ワークシート

3 声の表情

(1) 登場人物の声で最も低い声で表現されているのは、誰でしょう。

最も低い声で表現されている登場人物は
_____です。

(2) 最も強い声で表現されているのは、誰でしょう。

最も強い声で表現されている登場人物は
_____です。

(3) 魔王の声を、自分の言葉で表しましょう。

魔王の声は_____な声です。

*「魔王」では、父親が、低い声域を多用した落ち着いたある声色、子供は、だんだん声域が高くなり緊張が高まる強い声色、魔王は、柔らかく妖しい声色である。

学習を通して、声色の多様性を理解できればよい。

(3) 楽器の音色

鑑賞「世界の楽器」

<音楽の諸要素>

楽器の発音原理は、弦をこする、弦をはじく、吹く、たたくといった奏法に、大別される。

音色を聴き、楽器名を当てる活動を通して、音色の発音原理の識別ができるようになる。

*扱う楽器

ズルナ (吹く)、シタール (はじく)、カヤグム (こする)、
ケーン (吹く)、サントゥール (たたく)

<授業の展開>

T「楽器は、弦をこする、弦をはじく、吹く、たたく、
この4つのどれかで音を出します。」

T「次の楽器は、何でしょう。」

C (ズルナを聴く)「ズルナ」

C「ケーン」

T「なぜですか。」

C「吹く楽器だからです」

T 「そうです。吹く楽器です。よくわかりましたね。

これはズルナです。」

T 「次の楽器は何でしょう。」

C (カヤグムを聴く) 「カヤグム」

T 「その通り。どうやって音を出すの？」

C 「こする」

C 「弦をこすります。」

T 「では、次の楽器は何でしょう。」

C (シタールを聴く) 「シタール」

T 「どうやって音を出すの？」

C 「弦をはじく」

T 「そうです。よくわかりましたね。これはシタール
です。」

T 「次の楽器は何でしょう。」

C (サントゥールを聴く) 「サントゥール」

T 「その通り。たたいて音を出します。」

*授業から、生徒は発音原理を感受できる力を既に習得していることがわかった。発音原理が同じ他の楽器を識別させる学習にも関心が高かった。(扱った楽器 バグパイプ, ツィンバロン, チャランゴ)

(4) 音色の組み合わせ（編曲）

<音楽の諸要素>

音色の組み合わせにより、曲想は大きく変化する。生徒1人1台のDTMで、各パートの音色の設定をする。気に入った音色の組み合わせができれば、よしとする。

また、他の生徒とお互いの作品を聴きあうことで、多様な音色の組み合わせを感受する。

<授業の展開>

T 「音楽データの各パートに音色を設定します。

気に入った音色の組み合わせができたなら、データを保存しなさい。」

C 音色の選択活動

T 「友達と作品を聴きあいます。」

C 生徒同士の聴きあい活動（ヘッドフォン使用）

T 「これはよいという組み合わせがあったら、発表しなさい。」

T 教師用スピーカーで再生し、生徒全員で聴く。

6 歌 詞

(1) 歌詞の発音

<音楽の諸要素>

日本語の歌詞の発音に関しては、名詞はていねいに、助詞は軽く発音することで、自然な日本語に聞こえることが明らかになっている。また、鼻濁音や「ん」における n と m の違い、「いく」における「ゆく」の発音など、自然な日本語の発音を習得させる。

ア 「夏の思い出」江間章子 詞 中田喜直 曲

ワークシート

夏の思い出 江間章子 作詞 中田喜直 作曲

【表現の工夫】

1 歌詞の発音

名詞は ていねいに 発音します。

助詞は 軽 く 発音します。

「が」は 鼻 濁 音 で発音します。

C 『夏の思い出』を斉唱する。

T 「私は 女の子です。自然な日本語ですね。」

T 「名詞はていねいに発音します。では、助詞は？」

T 「私は 女の子です。」

C 「弱く発音する。」

C 「名詞より目立たなくする。」

T 「そうですね。逆に目立つようにしてみましょう。」

T 「私は 女の子です。これは変ですね。助詞や助動詞は軽く発音します。」

T 範唱♪ 「なつがくれば おもいだす
はるかな おぜ とおいそら」

C 斉唱♪ 範唱に続いて歌唱する。

T 「すばらしい。通して歌います。」

C 斉唱する。

T 「(板書)『が』と『か』を読みます。
復唱しなさい。」

T 「『が』学校, 学級」

C 復唱する。

T 「『か』 夏か (鼻濁音)」

C 復唱する。

T 「これを鼻濁音といいます。どちらがいいですか。」

範唱 ♪ A 「なつがくれば おもいだす」

範唱 ♪ B 「なつかくれば おもいだす」

C 「Bです。」

T 「鼻濁音で歌いましょう。」

C 『夏の思い出』を斉唱する。

イ 「ふるさと」高野辰之 詞 岡野貞一 曲

C 『ふるさと』を斉唱する。

T 「みなさんはどちらで歌っていますか。」

範唱 A ♪ 「いつのひにか かえらん (m)」

範唱 B ♪ 「いつのひにか かえらん (n)」

C 「どちらかわからない。」*自覚していない生徒は多い。

C 「mです。」

C 「nです。」

T 「『ふるさとに帰ろう』なら『かえらん (m)』

『ふるさとに帰らない』なら『かえらん (n)』

『かえらむ』は未然形です。mと発音します。」

C 斉唱 ♪ 「いつのひにか かえらん (m)」

T 「すばらしい。通して歌いましょう。」

C 『ふるさと』を斉唱する。

ウ 「花の街」 江間章子 詞 團伊玖磨 曲

C 斉唱 ♪「なないろのたにをこえて ながれてれていく
かぜのリボン」

T 「『ながれていく』と書いて、ながれてゆくと発音
します。」

C 「ながれてゆく」

T 「通して歌います。」

C 『花の街』を斉唱する。

* 教科書教材では、ひらがなの歌詞で、「ゆく」と書いてある場合が多い。日本歌曲や合唱曲では、「いく」と書かれている歌詞を、IKU と発音した模範演奏もある。

こうした誤った模範演奏(?)を鑑賞させ、「この歌詞には1箇所、発音が間違っているところがあります。」と発問すると、「いく」を指摘することができた。生徒は正しい日本語の発音を1回で習得できるのである。

エ 「浜辺の歌」 林古溪 詞 成田為三 曲

ワークシート

【鑑賞（批評）】「浜辺の歌」をA，B 2つの演奏で聴きます。より自然な日本語に聴こえる演奏はどちらですか。またその理由を書きましょう。

* 日本歌曲の演奏における，発音の不自然さについては，よく指摘される。それは，西洋音楽の発声法をそのまま日本語による歌曲に適用しているからである。

自然な日本語の発音による演奏と不自然な演奏を比較させることにより，美しい日本語の発音を認識できるようになる。

こういっては何だが，日本語の不自然な演奏の音源は多く，入手に困らない。逆に美しい日本語の発音による音源を捜すのは，教材研究としてやりがいがある。

(2) 歌詞と旋律

<音楽の諸要素>

『花』では、16分休符によって旋律が区切られている。休符によって区切られる瞬間は、音のエネルギーは小さくなり、結果として軽くなる。その部分に助詞が配置されている。(はるの うららの)

また、『赤とんぼ』では、歌詞のイントネーションと旋律の輪郭を一致させるという、山田耕筰の作曲技法が見られる。

明治時代になり、西洋文化が怒涛のように流入した。音楽も例外ではなかった。それまでの邦楽とは異なる西洋音楽は、当時の日本人の感覚から、相当隔たりがあった。

西洋音楽の様式に基づく、日本歌曲の創作は、当初困難を極めた。しかし、先人たちの創意工夫により、自然な日本語による歌曲が生まれた。

明治維新による西洋文化の受容を、音楽の側面から理解させたい。楽曲の文化的、歴史的な側面の学習である。

ア 「花」 武島羽衣 詞 滝廉太郎 曲

ワークシート

花 武島 羽衣 作詞 滝廉太郎 作曲

1 言葉と旋律

(1) 歌詞はどこで区切れますか。/で区切りましょう。

はるの / う ららの

根拠とした記号 _____

同じように歌詞を区切る部分が、他にもあります。1番で該当する歌詞を示し、/を用いて区切りましょう。

のぼり / くだりの

.....
かいの / しずくも / はなどちる
.....

<授業の展開>

T 範唱♪「はらの うららの」

T 「歌詞が区切れるところは、どこですか。
ワークシートに / 斜線を書きなさい。」
発表させる。

T 「根拠とした記号は何ですか。」

C 「16分休符です。」

T 範唱♪「はらの うららの」

C 歌唱♪「はらの うららの」

T 「すばらしい。同じように歌詞を区切る部分が、他にも
あります。1番で該当する歌詞を示し、/を用いて区
切りましょう。」

C ワークシートに記入する。

発表する。

T 「歌詞の区切り方に気をつけて歌いましょう。」

*歌詞の区切り方を、正確に歌唱できた。休符を考えて歌
った証拠である。

イ 「赤とんぼ」 三木露風 詞 山田耕筰 曲

ワークシート

2 旋律と歌詞

歌詞のイントネーションと旋律の起伏

歌詞のイントネーション

The diagram illustrates the intonation of the lyrics. It features two lines of lyrics with melodic lines above them. The first line of lyrics is 'ゆ や け こ や け の'. The second line is 'ソ ド ド レ ミ ソ ド ラ ソ'. A box labeled '歌詞のイントネーション' (Lyrics Intonation) has a speech bubble pointing to the first line. The melodic lines show a rising curve for 'ゆ や け' and a falling curve for 'の'. The second line shows a rising curve for 'ソ ド ド' and a falling curve for 'レ ミ ソ ド ラ ソ'.

歌詞のイントネーションと旋律の起伏の関係について、説明しましょう。

<授業の展開>

C 『赤とんぼ』を斉唱する。

T 「ワークシートを見なさい。」

T 「歌詞のイントネーションと旋律の起伏の関係について、説明しましょう。」

C ワークシートに記入する。
発表させる。

* 歌詞のイントネーションと旋律の起伏が相似であることが説明できればよい。

T 「明治になり、西洋音楽が輸入されました。当時の日本人にとって、ドレミと和音を用いて日本語の歌をつくるのは、難しいことでした。

そこで、より自然な日本語に聞こえるために、山田耕筰が発明したのが、歌詞のイントネーションと旋律の起伏を一致させる方法だったのです。」

* 筆者が生まれたとき、山田耕筰が生存していたことを話すと、生徒は驚いていた。長い日本の歴史から見れば、西洋音楽を受容したのは、比較的新しいことを確認した。

日本歌曲を、歴史、文化と関連させて学習する視点も必要であると思う。

(3) 歌詞の内容

ワークシート

1 番～4 番の歌詞は、「現実，回想」のどちらでしょう。

夕焼け小焼けの赤とんぼ
負われて見たのはいつの日か

回想

山の畑の桑の実を
小籠に摘んだはまぼろしか

回想

十五で姐やは嫁に行き
お郷のたよりもたえはてた

回想

夕焼け小焼けの赤とんぼ
とまっているよ竿の先

現実

<授業の展開>

T 「1～4 番の歌詞は、それぞれ現実、回想のどちら
でしょう。ワークシートに書きなさい。」

T 「一つだけ現実を歌ったものがあります。
何番ですか。」

C 「4 番です。」

T 「根拠とした言葉を指摘しなさい。」

C 「『とまっているよ』」

T 「なぜ現実なのですか。」

C 「『とまっているよ』は現在形だからです。」

*歌詞の内容を、絵に描かせたり、劇にしたりする実践がある。
詩は、文章を根拠に読み手が想像するものである。あくまでも
書かれている文章をもとに想像するという、詩の読み方を学習
すべきであろう。詞の言葉を正確に理解し、想像は自由にとい
う指導がよいと考える。

7 転調と曲想の変化

<音楽の諸要素>

転調による曲想の変化を言語化することで、転調の効果を理解することができる。

特に、長調と短調による転調は、音階の構成音の学習と関連させるのが効果的である。近年、生徒たちが耳にしているポピュラー音楽は、遠隔調への転調が頻繁におこなわれており、そうした曲を例に、転調の効果を発展的に学習する方法もあろう。

斉唱「帰れ ソレントへ」 G. B. テ・クルティス 詞

E. テ・クルティス 曲

<授業の展開>

C『帰れ ソレントへ』の範唱を聴く。

T「調が変わった部分はどこですか。歌詞8文字で指摘しなさい。」

C『「オレンジのかおり」です。』

T「そうです。ワークシートに書きなさい。」

8 鑑 賞

音楽の諸要素の感受と批評

音楽鑑賞の授業は、感想を書くことが目的ではない。音楽のしぐみに興味を持って、楽しく聴ければよいのである。そこで、音楽のしぐみを理解することが指導事項となる。

音楽のしぐみは、音楽の諸要素が、あるしかけで組み立てられたものである。このしぐみが曲想にどう関連しているかを学習する。これが鑑賞における諸要素の感受である。

新学習指導要領で示された批評は、この延長にある。音楽の諸要素と曲想との関連は、1つの楽曲の異なる演奏を比較することで、より明瞭になる。そこで、2つの演奏を聴いて批評する学習が成立する。

鑑賞における批評とは、音楽の諸要素と曲想との関連について、自分なりの価値判断をすることである。

新学習指導要領では、1年生が音楽の諸要素の感受、2,3年生が批評となっている。

(1) 諸要素の感受

ワークシート

【鑑賞（諸要素の感受）】

- (1) 「ラバースコンチェルト」は編曲作品です。
原曲「メヌエット」と比較し、拍子の違いについて説明しましょう。
- (2) バッハの「無伴奏パルティータ」の原曲と編曲作品を聴き、異なることを5つ書きましょう。
- (3) 「ラバースコンチェルト」のサラヴォーンによる演奏を聴き、気がついたことを、できるだけたくさん箇条書きしましょう。

編曲作品は、原曲における音楽の諸要素を変化させたものである。原曲と比較することで、音楽の諸要素の変化と曲想の関連、すなわち“変数”が曲想に与える効果を見つけやすい。

『ラバースコンチェルト』と『メヌエット』の比較では、拍子の違いに限定した。

バッハの『無伴奏パルティータ』では、使用している楽器や声の違いに着目すれば、音色の感受である。旋律の重なるの違いに着目すれば、テクスチュアの感受である。またリズム、拍子の違いにも気づく。音楽の諸要素を5つ書ければ、よしとする。

サラヴォーンによる演奏では、できるだけたくさんの音楽の諸要素を見つけさせる。こぶしがかった即興的な声の装飾など、たくさんの諸要素を見つけることができる。

ワークシート

荒城の月 土井晩翠作詞 滝 廉太郎作曲

【鑑賞（諸要素の感受）】

滝 廉太郎の原曲（無伴奏）と山田耕筰編曲を比較し、違いについて説明しましょう。

原曲はh m o l l, 4分の2拍子であり、曲想がより軽やかである。無伴奏なこともあり、透明感のある斉唱である。

山田耕筰の編曲はc m o l l, 4分の4拍子であり、伴

奏が付加されていて、重々しい曲想になっている。また、旋律で半音変更になっている部分がある。

こうした音楽の諸要素と、それがもたらす曲想の違いを説明できればよい。

ワークシート

【鑑賞（諸要素の感受）】

- 1 「カリンカ」（ロシア民謡）の演奏を聴き、自分たちの演奏と比較して、気がついたことを書きましょう。
- 2 「チャルダッシュ」（ロマニー民謡）を聴き、テンポの変化について「カリンカ」と共通していることを見つけましょう。

『カリンカ』の演奏を、自分たちの演奏と比較して聴くことで、速度の変化の違い、強弱の度合いの違い、それらがもたらす曲想の違いについて書ければよい。

また、自分たちの演奏では用いていない、様々な楽器についても気づくであろう。

『チャルダッシュ』も、速度の緩急がはっきりした構成の曲である。2つの曲の構成が共通していること

を説明できればよい。

ワークシート

【鑑賞（諸要素の感受）】

赤い鳥*による「翼をください」の演奏を聴きます。
気がついたことを書きましょう。

*赤い鳥・「翼をください」を作曲演奏したフォークグループ

教科書には、ポピュラー音楽の編曲作品が載せられている。この原曲を鑑賞することは大切である。原曲を聴くことで、伴奏に使われている楽器の違いがもたらす効果、歌詞の発音や発声の違い、少人数の斉唱と合唱の違いに気づくであろう。

こうした音楽の諸要素と、それがもたらす曲想の違いを説明できればよい。現代の中学生にとって、この時代のポピュラー音楽は、もはや古典的な響きがするようである。

ワークシート

【鑑賞（諸要素の感受）】

四季より「春」（ヴィヴァルディ）

次に演奏する場面を，B～Dから選び，記号で答えなさい。

またそう判断した理由を説明しなさい。

B 小鳥は楽しい歌で，春を歓迎する。

C 泉はそよ風に誘われ，ささやき流れていく。

D 黒雲と稲妻が空を走り，雷鳴は春が来たことを告げる。

ヴィヴァルディの「春」や，スメタナの「モルダウ」は，音による情景描写である。「春」の小鳥が歌う場面では，小鳥の声を模倣した，高音域のスタッカートによるパッセージが，その場면을想像させる。

また，雷鳴の場面では，低音の強く細かい音符の連続や，ヴァイオリンソロの早いパッセージが，その場

面を想像させる

「モルダウ」では、村の婚礼の場面におけるダンスのリズムや、狩の場面におけるホルンのファンファーレなどが、その場면을想像させる。

このように音楽の諸要素を指摘し、情景との関連を述べられればよい。

(2) 批評

ア 日本歌曲を批評する

ワークシート

【鑑賞(批評)】日本の歌を大切に受け継ごう。

(1) 七つの子

大正期には、多くの童謡がつくられました。しかし、日本の歌には、歌詞が誤って変えられてしまうことが多く見られます。野口雨情の「七つの子」を聴きます。楽譜と違っているところを指摘しましょう。

「かわい」が「かわいい」になっている。

(2) シャボン玉

野口雨情の「シャボン玉」を聴きます。原曲では「風，風，吹くな」の部分は、伴奏がありません。編曲された伴奏と聴き比べ、どちらが詩の内容にふさわしいか、自分の考えを書きましょう。

日本歌曲は、原曲から誤記されることが多いとされている。「七つの子」も、そうした曲の1つである。

「かわいい ななつの こがあるからよ」の歌詞は、正しくは「かわい ななつの こがあるからよ」である。

「シャボン玉」は、無伴奏の持つ表現の効果について、自分なりの考えが書ければよい。

こうした学習を通して、楽譜を無条件に正しいと考えずに、原曲と相違ないか見極める必要性を認識できればよい。また日本歌曲の原曲を大切にする気持ちを持たせたい。

イ 一対比較法

同じ曲を2つの異なる演奏者、演奏形態で鑑賞し批評する方法を、一対比較法と呼ぶ。これを批評の方法として提案したい。演奏者を比較すると、それぞれの解釈が異なるため、曲想に様々な差が生まれる。

1つの演奏を批評することは難しいが、2つの演奏を比較することによって、生徒は容易に批評ができるようになる。批評とは、根拠を示して価値判断するという論理的思考技術であるから、評価も可能である。

比較によって、旋律の表情、強弱、速度、発音、音色など、生徒は様々な音楽の諸要素に着目し、その効果について自分なりの価値判断をすることができる。

鑑賞における批評は、音楽評論をするのが目的ではない。音楽の諸要素と曲想の関係を論じることで、自分なりの価値判断ができることが目的である。

以下、授業に用いた一対比較法によるワークシートを示す。

ワークシート

【鑑賞（批評）】

2人の歌手による「花」(滝 廉太郎)を聴きます。

あなたがより好きな演奏はどちらですか。またその理由を説明しましょう。

私の好きな演奏は _____ です。

理由

【鑑賞（批評）】

A, B 2つの「夢の世界」の演奏を聴きます。

あなたがよいと思った演奏を選び、選んだ理由について述べましょう。

選んだ演奏

選んだ理由

【鑑賞（批評）】

本校の合唱コンクールで演奏された「流浪の民」を
2つの演奏で聴きます。批評しなさい。

【鑑賞（批評）】

他のグループによる「太陽がくれた季節」の演奏を
聴き、次の2点について批評しましょう。批評とは根
拠を示して、演奏を評価することです。

パートの役割

曲の構成と強弱の変化

以上が、批評のワークシート例である。鑑賞には、音楽
の諸要素の感受、批評以外にも、文化的、歴史的な文脈
で曲を理解する学習もある。

その楽曲が生まれた文化的背景を歌詞から読み取る鑑賞のワークシートを示す。

【鑑賞(文化的背景)】

ア カペラによる「ジュリコ」と「アメージンググレイス」を、訳詞を読みながら聴き、どのような文化から生まれた曲か、自分の考えを書きましょう。

Ⅲ 言語力と表現力は相関する

そもそも言語活動は、音楽の表現力と関係があるのか？という疑問をお持ちの方もいらっしゃると思う。よく、鑑賞の授業における評価の際、「文章力のある生徒が高く評価される。」といわれるように、言語力は音楽科の学習とは無関係のような扱われ方をする。

音楽は感性の教科だといわれる。その通りである。しかし、感性だけの教科ではない。既に述べたとおり、表現の工夫は音楽を聴くことと、言葉で考えることから成立しているのである。

新学習指導要領では、全ての教科に言語活動を取り入れることが示された。音楽科は蚊帳の外ということにならないようにしたい。既にサッカーの世界では、国際的な水準に高めるために、言語活動が必要との認識に達している。

そこで、言語力を高めることが、音楽の表現力を高めることにつながることを証明するため、「表現力と音楽行動における言語力には、相関関係がある。」という仮説を設定した。

1学期に、音楽作文ワークシートを用いた実践を行い、歌唱実技テスト表現点と音楽作文評価の相関関係を調査することで、仮説の検証をおこなった。

方 法

【目的】 歌唱の実技テスト（技術点、表現点）から表現点を表現力とし、作文評価との相関関係を調査する。

【調査対象】 本校2，3年生

【調査年月日】

音楽作文ワーク評価

平成20年4月28日（月）～5月23日（金）

歌唱実技テスト

平成20年6月6日（金）～6月24日（火）

【歌唱実技テストに用いた教材】

2年生 混声3部合唱「夢の世界を」

3年生 混声2部合唱「花」

【指導事項】

2年生 動機の提示，反復・変化，発展による
フレーズの表情，曲の構成と強弱の変化

3年生 休符が入ったフレーズの表情，
曲の構成と強弱の変化

【評価基準】

歌唱実技テスト表現点

- A 指導事項について充分表現できていると認められる。
- B 指導事項についておおむね表現できていると認められる。
- C 指導事項について不十分と認められる。

作文評価

- A 指導事項について、根拠を示して具体的に表現意図を述べることができる。
- B 指導事項について、表現意図を具体的に述べることができる。
- C 指導事項について、表現意図を述べるができる。

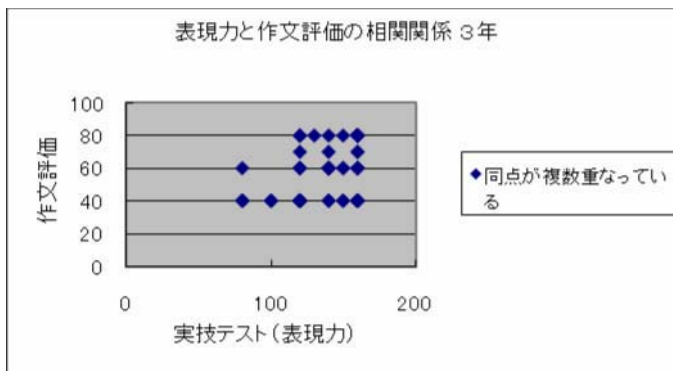
*評価は認定評価（絶対評価である。）

【データ処理】

A=80, B⁺=70, B=60, C⁺=50, C=40 と点数化した。歌唱実技テスト表現点と作文評価との相関関係を、散布図に表し、相関係数を求める。t 値を求め、有意差が認められれば、歌唱実技テスト表現点と作文評価に、相関関係があるとする。

結果

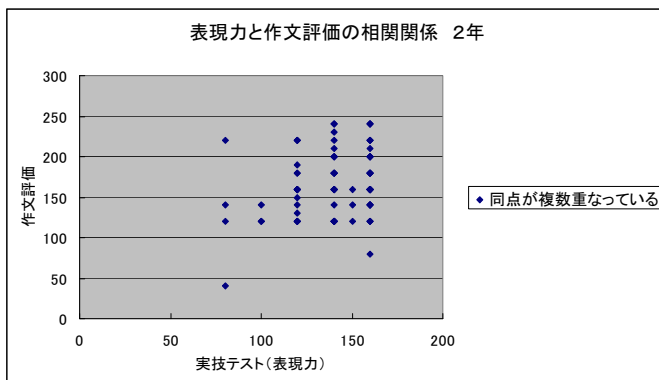
表 1



0.1%水準で相関関係に、有意差が見られた。(相関係数 $r=0.5$, $t=4.672$)

歌唱実技テスト表現点と作文評価に、相関関係が認められた(表1)。

表 2



1%水準で相関関係に、有意差が見られた。(相関係数 $r=0.3$, $t=2.830$)

歌唱実技テスト表現点と作文評価に、相関関係が認められた(表2)。

以上の結果から、仮説「表現力と音楽行動における言語力には、相関関係がある。」は支持された。

言語活動は、表現力を向上させる要因の一つと考えられる。

【著者紹介】

内田 有一 （うちだ ゆういち）

昭和 38 年（1963 年）生まれ。

茨城大学教育学部卒業。

兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士課程修了。

土浦市立土浦第四中学校，取手市立永山小学校，

取手市立永山中学校を経て，

現在，守谷市立愛宕中学校教諭。

メールアドレス u-yuichi@mue.biglobe.ne.jp

【著 書】

「危機に立つ音楽科教育」（遊タイム出版 共著）

「SERENO 音楽科教育実践講座」（ニチブン 共著）

「テストストップ ミュージックの音楽授業 3」（日本教育新聞社 共著）

「テストストップ ミュージックの音楽授業 4」（日本教育新聞社 共著）

「テストストップ ミュージックの音楽授業 5」（日本教育新聞社 共著）